

国分寺崖線ってなあに？

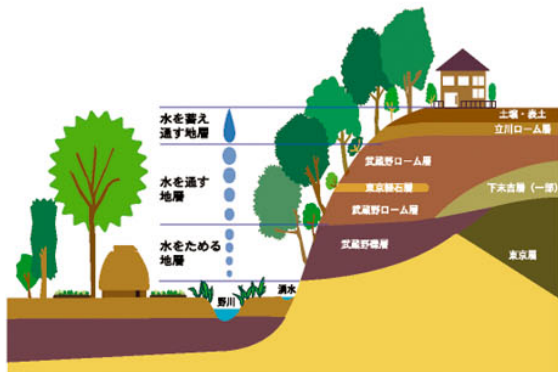
こんな自然豊かな風景が、わたしたちの住む世田谷にあるって知ってましたか？四季折々の水と緑が織りなす自然風景の生命線、それが国分寺崖線です。崖線のこと、ちょっと詳しく知るための豆知識をご紹介します！

私たちの住む世田谷区は、みどり豊かな住宅都市として、かけがえのないみどりを大切にしてきました。みどりは、そこに住む人々に潤いと安らぎを与えてくれるばかりではなく、環境や安全のために欠かせない存在でもあります。また、多くの生きものにとって重要な生息空間でもあります。区内には、大きな自然の営みと

歴史の流れを肌で感じることができる場所があります。それは国分寺崖線と呼ばれる「崖の連なり」です。多摩川が10万年以上の歳月をかけて武蔵野台地を削り取ってできたこの段丘とその周辺に残る樹林や湧水などの自然環境は、世田谷区の「みどりの生命線」とも言われる貴重なものとなっています。

水の湧き出る豊かな台地

世田谷区内にある湧水は約100ヵ所。そのうちの8割が崖線沿いにあります。崖線斜面地の地層によってもたらされたその豊かな水辺空間では、ハンノキをはじめ湿生植物が群落をつくり、いろいろな生きものすみかとなっています。



みどりの連なる都市のオアシス



神明の森みづ池の湧水

斜面地やその周辺には樹木が茂り森の様相を呈しています。それらの樹木は、元々、里山の雑木林として利用されてきたコナラ、クヌギ、イヌシデ等の落葉広葉樹が中心であり、新緑や黄葉等の季節の変化を感じる武蔵野らしい緑地帯となっています。また、松林やスダジイ等の常緑樹が場所ごとに混在し、多様な樹木から構成されています。

台地を感じる見晴らし



四本三丁目の富士見坂

国分寺崖線の斜面にそって、いくつもの坂があり、長年にわたって親しまれてきた坂には名前がつけられています。

また、多くの坂が南西に面しているため、冬の時期には坂の上から富士山と多摩川の壮大な眺めが得られる場所もたくさんあります。

国分寺崖線の位置

国分寺崖線の「崖の連なり」は、立川市から国分寺市などを經由し、世田谷区から大田区へと延長約30kmにわたっています。世田谷区内では南西部に位置し、多摩川と野川に沿って約8km続き、高さ10~20mの斜面からなります。



まちの歴史資産



玉川野毛町古墳

国分寺崖線に沿って、たくさんのお墓があります。先史時代からの歴史を有するとともに、江戸時代には大山道、筏道、登戸道といった古道ができ、その沿道には歴史を感じさせる祠や寺社等があります。明治時代以降は、浄水場や河川の堤防の整備などが行われ、近代化遺産となっています。また、等々力渓谷は平成11年に東京都の名勝指定を受け、保存管理計画のもとに整備を進めています。

先進的な住宅地づくり



成城三丁目界わい

江戸時代から農村としての歴史がある場所ですが、鉄道の開通とともに住宅地へとかわってきました。大正から昭和初期にかけては、財界人等の別荘が岡本から上野毛近辺にいくつも建てられました。

その中の一部は、西洋の建築様式や技術の影響を受けた近代建築と呼ばれ、特徴のある街並みをつくり出しています。

また、玉川地域では玉川全円耕地整理事業により整った住宅街が生まれ、成城では区画整理事業により整然とした街並みが形成されました。このような時代の変遷をへて、現在もみどりの多い住宅街として発展してきています。